科目ナンバリング	U-LAS00 10013 LJ34						
授業科目名 <英訳>	東洋社会思想史II The History of Eastern Thought II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　福谷　彬		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・後期	曜時限	金3/金5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

明治以来、西洋近代思想の導入が朱子学的価値観の否定・克服を意味することが多かった日本では、朱子学は頑迷固陋な保守思想として理解されることが多い。しかし、朱子学が誕生したその当時においては決してそのようではなかった。むしろ、中国の宋代という新しい時代に必要な新しい価値観を形成する進歩的思想だったのである。宋代という時代は、以前のような世襲貴族ではなく、科挙試験によって登用された知識人が政治や文化を主導する時代であった。
内藤湖南や宮崎市定に「唐宋変革論」という学説が存在するように、唐代から宋代に至っては、政治・社会・経済・文化の様々な方面で大きな変動が起こった。いわゆる「三大発明」も宋代の知識人によって発明されたように、科学技術の発達も目を見張るものがあった。そうした様々な時代の変化は、儒教思想のアップデートをも促したのであり、そうして誕生したのが朱子学だったのである。
「頭ではわかっているはずなのに、行動が伴わないことがあるのはなぜか」「有効に機能する政策を作成するには、どのように計画すればよいのか」朱子学は、このような現代人にとっても悩みとなるような多くの問題に取り組んだのである。
朱子学は単なる倫理思想ではなく、一身の修養論から、万人の統治論、政策論、宇宙論にまで説き至る、中国思想史上、空前絶後の思想体系であった。その思想の影響力は、中国にとどまらず、前近代の朝鮮や日本においても絶大であった。本講義では、そうした朱子学の形成と発展とを、アジアでの受容も視野に入れながら、紹介する。
なお、本講義での学生に対する到達目標は高いため、意欲的な学生の受講は大いに歓迎するが、単位目的のみの履修は推奨できない。

[到達目標]

朱子学的な理念を知ることを通じて、誤解や偏見に引きずられずに物事を正しく理解するための心がけや、社会生活を健全に営む上でのモラルの重要性を理解する。
朱子学に対する世間の誤解や、そうした誤解が蔓延る原因を考察することを通じて、世間で常識とされる考え方に対して批判的に検討する視点を養う。

[授業計画と内容]

・参加者の興味・関心を踏まえて、適宜内容を改める。
第一回 この講義の目的・ガイダンス
第二回 春秋時代と孔子の思想①
第三回 春秋時代と孔子の思想②
第四回 戦国時代と孟子の思想
第五回 唐宋変革論と宋代社会
第六回 朱子の生涯
第七回 朱子と『大学』①
第八回 朱子と『大学』②
第九回 朱子と『論語』解釈
第十回　朱子の修養論
第十一回　朱子の政策論

東洋社会思想史II(2)へ続く↓↓↓

東洋社会思想史II(2)

第十二回　朱子学の制度化と変容
第十三回　江戸の日本朱子学
第十四回　明治以降の日本朱子学
第十五回 フィードバック

[履修要件]

前期の東洋社会思想史Ｉを受講していることを前提としたい。前期の講義の音声付PPT資料をPandA（3〜4回分ほど）にアップするので、前期を未履修の受講者は、前期の内容を必要に応じて確認すること。

[成績評価の方法・観点]

PANDAを通じて、毎回、講義の感想・質問を提出することを課題とし、平常点とする。
成績は平常点50%+期末レポート50%で評価。

[教科書]

使用しない

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内容に関連して推薦する図書を紹介する。

[その他（オフィスアワー等）]